鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文（まいぶん）だより

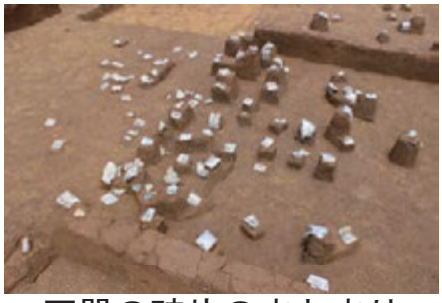
第６５号
平成２６年１２月１５日発行

礫群出土状況

新たな営みの始まり

　県道頴娃川辺線（知覧道路）道路改築事業に伴う発掘調査が８月で終了した鞍曲遺跡では，シラスのすぐ上から旧石器時代の遺構や遺物が出土しました。シラスは，約 28,000 年前に姶良カルデラの巨大噴火によって発生した入戸火砕流が起源であるとされています。このことから鞍曲遺跡は大規模な噴火のあとに人々がようやく住めるようになった頃の遺跡と考えられます。

　今年２月からの調査で，調理施設と考えられている礫群が 56 基，石器製作の痕跡と考えられているブロックが４基見つかりました。その他に剥片尖頭器やナイフ形石器など数多くの遺物が見つかり，当時の生活を考える上で重要な資料になりました。


石器の破片のまとまり

目　次

・新たな営みの始まり……１
・発見！発掘速報……２・３
・百聞は一見に如かず（研修・体験学習等）…４・５
・遺跡公開！現地説明会開催……６

発見！発掘速報

県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターでは，今年度も県内各地で発掘調査を行っています。たくさんの成果が得られていますので，その一部を紹介します。

❶江戸時代の製鉄・鍛冶関連施設群
～合戦田陣跡（肝付町）～

19 世紀ごろの製鉄・鍛冶関連と思われる施設群が発見されました。周辺からは鉄滓（鉄くず）や鞴の羽口などの遺物も多く出土しました。この施設群は方形炉（約 250×200cm）と円形炉（直径約 95cm）からなり，方形炉の地下からは大型土坑（直径約 500cm，深さ約 250cm）も見つかっています。

円形炉

方形炉（中央）と
大型土坑（手前左）

❷弥生時代の土坑墓
～永吉天神段遺跡（大崎町）～

弥生時代中期（約 2,100 年前）の土坑墓（長さ 220× 幅 90cm）が発見されました。土坑墓には，磨製石鏃が 5 本あり，戦いで鏃が刺さった人を埋葬したものなのか，副葬品として入れたものなのか，今後の検討が必要な発見です。その他にも，管玉や鉄鏃が入った土坑墓が発見されています。

管玉

磨製石鏃

土坑墓は一人分の大きさ

石鏃（円内）検出状況

❸ 重なり合う弥生時代の住居跡
～荒園遺跡～　（大崎町）

縄文時代早期（約 8,000 年前）と弥生時代中期（約 2,000 年前）の調査を進めています。弥生時代中期の調査においては，竪穴住居跡が2軒重なり合う形（ベッドのような施設を持つ住居跡が新しい）で見つかりました。住居跡の埋土からは山ノ口式土器が出土し，前の住居とほぼ同じ所に新しい住居を建てたことには，どんな事情があったのでしょう。

また，縄文時代早期の耳栓（耳飾り）も発見されました。

耳栓

竪穴住居跡（上は調査中のようす）

❹ 赤と黒の土師器
～里町遺跡～　（伊佐市）

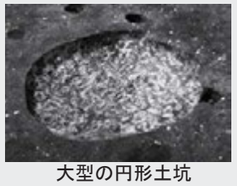
里町遺跡では，古代（平安時代）～中世（鎌倉・室町時代）の土師器と呼ばれる素焼きの器が多く見つかりました。中には，高台（碗などの底にある輪状の台）を赤色の粘土で作ったものや，内面に煤を染みこませて黒く仕上げたものもあります。特に赤色の高台の土師器は北薩地方で多く見つかっています。当時の人々は色にどのような想いを込めたのでしょうか。

出土した土師器

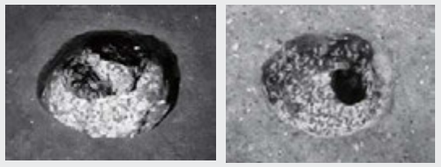
溝状遺構（左）と大型土坑（右）

❺ ピット（小さな穴）をもつ土坑
～牧山遺跡～　（鹿屋市）

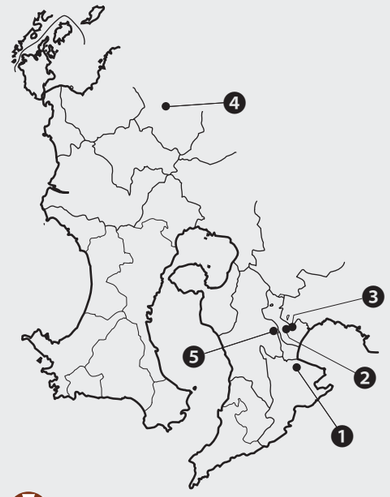
牧山遺跡でも，他の遺跡同様に土坑が検出されています。ただ，牧山遺跡では，特徴的な土坑が検出されました。それは，円形や楕円形の土坑の底面に，ピットを伴うものです。調査開始から 4 か月で計 5 基検出されています。


大型の円形土坑

また，直径1.8mの大型の円形土坑も検出されました。検出当初は，住居跡かと思われましたが，類例等から，住居跡の可能性は低いことが分かりました。この土坑の中央部に炉穴があったり，土坑の周囲に規則的に並ぶピットが検出されたりすると，住居跡である可能性もあったのですが，見つかりませんでした。


ピットを伴う土坑

2･3ページで紹介した遺跡の位置



…県立埋蔵文化財センターの発掘調査

…（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査

かごしま遺跡フォーラム2014
～発掘調査の成果からみえてきた中世のかごしま～

10月26日（日）に「かごしま遺跡フォーラム2014」が，鹿児島県歴史資料センター黎明館で開催されました。今年で3回目の遺跡フォーラムとなりましたが，140名を越える方々にご参加いただき盛会のうちに終えることができました。今回はサブテーマを「発掘調査の成果からみえてきた中世のかごしま」としましたが，これは黎明館で開催中の特別企画展「南からみる中世の世界～海に結ばれた琉球列島と南九州～」とタイアップするという初めての試みでした。このことでいろいろな切り口から「中世のかごしま」について迫ることができました。また，フォーラム終了後は，黎明館の特別企画展の見学もありました。

フォーラムのようすや配付資料は，ホームページ上に公開する予定ですので是非アクセスしてください。（URLは本誌6ページ下にあります）

新たな企画展始まる

上野原縄文の森第41回企画展が11月28日（金）から「古墳時代のかごしま～1,500年の時を越えて～」というテーマで始まりました。近年，明らかになってきている鹿児島の古墳時代について，形態や分布状況，副葬品などを，他県の資料と比較しながら紹介しています。平成27年1月24日（土）には，企画展講演会を開催します。また，開催期間中（平成27年3月22日まで）の土・日・祝日には展示の解説を行うギャラリートークもあります。多くの方のご来場をお待ちしております。

百聞は一見に如かず

県立埋蔵文化財センターでは，児童・生徒をはじめ，教職員や市町村の専門職員の皆さんを対象とした研修や体験学習を開催しています。今年も，たくさんの方がいろいろな活動に積極的に，そして楽しみながら（？）参加して，多くのことを学んでいかれました。

フレッシュ研修 パワーアップ研修

夏休みの期間を利用して，学校の先生方を対象とした研修が行われました。初めての作業に戸惑いながらも，授業をするときと同じように真剣に取り組む姿はさすがと感じました。来年度，研修の対象になっている先生方，ぜひ参加してみてください。いろいろな体験などが，知識の幅を広げ授業の充実につながること間違いありません。

感想（抜粋）
☆教科も全く関係ないこちらの講座を選択したのですが，大正解でした。我が子を連れて来館したこともあったのに，知らないことだらけで本当に”目からウロコ”でした。
☆体験や見学，実物に触れることも，とても有意義でした。そして何より，講義が本当におもしろくて夢中で聞かせていただきました。
☆二日間の研修で，大変貴重な経験をすることができました。この研修を活かし，また児童に還元したいと思います。

埋蔵文化財 専門職員養成講座

市町村教育委員会の職員の方々を対象とした講座で，初級と中級の２回開催しました。整理作業や発掘調査の方法･技術はもとより，写真撮影や保存処理等の基礎的な知識などを詳しく理解する機会になりました。今後の業務で，どんどん活かされることと思います。

アンケート結果（抜粋）
☆今回の研修で少しでも発掘調査の手助けをしたいと思う。
☆一つひとつの研修をもう少し時間をかけてじっくり取り組みたい。
☆発掘・整理作業の時間がもう少し欲しかった。中級も受けてみたいと思う。
☆ただ講義だけでなく，体験も交え，経験したことがあるものもあったが，その中で知らない発見があり，初体験はもちろんのこと，勉強になった。自己啓発に役立てたい。
☆関心のある分野を選べるため，自分に必要と思う講座があり，とても勉強になった。
☆各市町村によって多様な課題を抱える現状で，選択制はありがたい。

職場体験学習

いくつかの遺跡や当センター，縄文の森の展示館で職場体験学習が行われました。志布志市の山ノ口遺跡では，志布志市立宇都中学校の２年生１名が三日間参加しました。途中，雨が降る日もありましたが，作業員や職員の指導を受けながら掘り下げをしたり，土層断面を図面にする過程を学んだりと充実した学習に取り組むことができました。学校ではできないこのような体験が，今後の進路を考えていく上で重要な指針になっていくことでしょう。

感想（抜粋）
☆初日では，職場の方々の姿をみて「団結」ということを学ぶことができました。二日目は，職場の方々の話を聞いて「労働の大切さ」を学び，三日目は「元気」を学びました。

発掘体験 etc.

夏休み期間中に，遺跡の見学や発掘体験にも多くの方が参加されました。遺跡の説明を聞くだけではなく，実際に発掘をして土器などを発見して感動とともに大喜びされている姿があちらこちらで見られました。土器などの遺物を発見したときの喜びは，体験した人しかわからない素晴らしい思い出になります。まだ体験していないあなたも，機会があればぜひ参加してみてください。思わぬ大発見につながるかも…?!

牧山遺跡

鹿屋市文化財センターによる発掘体験が７月28日に行われました。整理作業場で，遺物を見て「打製石斧だ」と，知識豊富な児童もいました。発掘体験で土器を発見して一番喜んでいたのは，保護者の方でした。初めての経験に感動していたようです。

初めて使う道具に戸惑いながらも遺物を必死に探しています

ここに何かある！

真剣な表情で見つめます

牧野遺跡

南九州市のミュージアム知覧こども学芸員の16名が，８月20日に発掘体験を行いました。はじめに職員から発掘調査の進め方や出土する遺物について説明があり，その後，発掘道具を一人ずつ受け取り，作業をはじめました。遺物が出土すると嬉々（ききき）とした表情で目印の竹串を出土したところに刺していました。

道具の使い方をしっかり聞いています

発掘開始！

何か見つけた？

遺跡公開！ 現地説明会開催

立小野堀遺跡　永吉天神段遺跡

（公財）埋蔵文化財調査センター

9月13日（土）に，立小野堀遺跡（鹿屋市）と永吉天神段遺跡（大崎町）の2ヶ所で現地説明会が開催されました。当日は朝から雨が降り続き，足下もぬかるんだ悪条件にもかかわらず，

県内外から多くの見学者が訪れて，日頃なかなか見ることのない発掘現場のようすを感じたり，昔日の名残をとどめる遺構や遺物の説明を聞きながら遙かな古の世界に思いを馳せていたようです。

立小野堀遺跡では，午前10時から調査担当の職員の先導で説明会が始まりました。この遺跡では，約1,500年前に造られた「地下式横穴墓」が約190基発見されていますが，これだけ多くを調査した例はなく，南九州の古墳時代を考える際の重要な遺跡になります。

「地下式横穴墓」とは，まず地面に竪穴（竪坑）掘り，その底部付近から横穴を掘り遺体を安置する空間（玄室）を作ります。遺体を安置したり副葬品を納めたあと，竪坑と玄室をつなぐ部分（羨道）を石・土塊・木材などでふさぎ，最後に竪坑を埋めるタイプです。これは，古墳時代の南九州にみられる墓の一つです。また，副葬品として，刀剣や矢じりなどが発見されています。

永吉天神段遺跡では，午後1時30分から開始されました。「円形周溝墓」発見のニュースがテレビや新聞で報道されたことで，さらに多くの方が興味を持ち，来場しました。

「円形周溝墓」は小高い丘の最頂部に近いところにあり，方形の土坑墓と思われる部分の周りに直径約8mの円形の溝が巡らされています。この墓の，南西方向に多くの土坑墓が見つかっていることから，約2,100年前に付近にあった集落で最も位の高い人物が葬られていると思われます。また，火事の痕跡が残る大型の円形竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構，磨製石鏃や鉄鏃，管玉などの遺物も発見されています。

両遺跡合わせておよそ600名が，傘を差しながら写真を撮ったり，配布資料と見比べながら見学していました。遺構の規模に驚きの声をあげたりすることもしばしばでした。説明を聞いたあとに質問をしたりする方もいて，考古学ファンの関心の高さを実感しました。見学者から「身近なところに，このような貴重な遺跡があることに驚いた。これからの発掘も見守りたい」という声もありました。

今後も，このよう現地説明会が開催される場合があります。詳しい日時等は，上野原縄文の森のホームページ上でお知らせしますので，定期的にチェックをしてください。

当センターの見学は，土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前9時～午後5時まで，入館料は無料です。

検索キーワード　上野原縄文の森　検索　クリック

なお，当センターのホームページは，鹿児島県教育委員会（http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/）または，上野原縄文の森(http://www.jomon-no-mori.jp)からお入りください。

埋文だより　第65号
発　行　日　平成26年12月15日
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp